

### 聖書箇所Ⅰ：創世記1章26－27節

- 26 神は仰せられた。「さあ人を造ろう。われわれのかたちとして、われわれに似せて。彼らが、海の魚、空の鳥、家畜、地のすべてのもの、地をはうすべてのものを支配するように。」
- 27 神は人をご自身のかたちとして創造された。神のかたちとして彼を創造し、男と女とに彼らを創造された。

### 聖書箇所Ⅱ：創世記2章22－24節

- 22 神である主は、人から取ったあばら骨をひとりの女に造り上げ、その女を人のところに連れて来られた。(23) 人は言った。「これこそ、今や、私の骨からの骨、私の肉からの肉。これを女と名づけよう。これは男から取られたのだから。」
- 24 それゆえ、男はその父母を離れ、妻と結び合い、ふたりは一体となるのである。

### メッセージ骨子：

<序論> 聖書を深く読むと、祝福された結婚のあり方を知ることができます。が一方で、最近は同性婚を法的に認める国があり、またシングルマザーも珍しくもなくなってきました。夫は要らないが子供はほしいという女性も増え、「結婚っていったい何なの？」という問いが時代の大きなテーマになりつつあります。今日はこの問いに答えつつ、「豊かな結婚」の定義を探ってみたいと思います。

### <ポイント1> 「聖書に従う結婚」

神は創世記で、自分のことを「われわれ」と複数形で呼びました(1:26)。結婚は、この父、御子、聖霊の三位一体の神の、愛の関係の再現なのです。つまり多様性を keepしながら、親密で一体感のある関係、喜びと愛情溢れる関係。これを思うとき、うまくいった結婚がなぜこれほど祝福されるのかがわかります。そして聖書の基本は十戒です。一言で言うとそれは「隣人を愛せ、赦せ」、かつそれは、状況次第ではなく、絶対命令なのです。だからこそイエス様は、十字架の上においてでも「父よ、彼らをお赦してください。」と祈られました。これに従う限り、幸せな結婚は間違いありません。

### <ポイント2> 「もともとは別なもの同士と知る」

複数の既婚者にアンケートした結果、結婚した男女が相手に期待することの1位は、男性が「尊敬されたい」、女性が「愛情表現がほしい」でした。2番目に求めるものが、男性は「性的な親密感」であるのに対し、女性は「感情的な親密感」でした。つまり人と心でつながってほしいという気持ちですが、そこで発揮するのが女性のコミュニケーション能力です。また男性は解決を求めて話をしますが、女性は気持ちを通じさせるために会話する。これほどに男女は different どころか opposite(逆)な性質を持っており、これがぶつかり合うのが結婚です。

### <ポイント3> 「互いを自分の居場所と知る」

ノートルダム清心の渡辺和子先生の「おかれた場所で咲きなさい」という著書があります。自分の置かれている場所を、主のみ心の場だと信じ、そこで咲く努力をする。そのとき、そこに主の深い思いと、摂理と、ご計画が見えてくるという内容です。また「人から取ったあばら骨を、一人の女に造りあげ」(創世記1:22)とあるように、彼女はもともと男の一部でした。それが離れ、またくっついた。だからアダムは23節、彼女を見たとき「これこそ捜し求めてきたもの」と叫んだのです。この2つがくっついた状態が、元のあるべき姿、一番安定した形。ですから、もし私たちが、夫や妻の存在を自分の居場所として感じることができるとしたら、その根本はここにあることがわかります。

<まとめ> 男女がくっつくための接着剤は4つです。1つ目は「好きだから一緒にいたい」という感情的な接着剤ですが、これは時間とともに風化します。2つ目は「同じ信仰、同じ価値観、使命感」から来る霊的な接着剤で、持続力があります。3つ目は「神の前で交わす誓い」から来る意思による接着で、これは誘惑への抵抗力になります。そして性的な接着。最も強力で、まちがっても結婚外で使うと、はがすときに致命的なダメージをこうむります。さて、皆さんにとって奥さん、あるいはご主人は、ご自分の「居場所」になっているのでしょうか。アウエーで戦った後の羽を休める「ホーム」になっているのでしょうか？ホームの柱は、聖書であり、イエスキリストであってほしいものです。たとえ opposite でバラバラでも、それをひとつにできる唯一の接着剤が、主イエスキリストの愛だからです。

「もし一人なら打ち負かされても、ふたりなら立ち向かえる。三つ撚りの糸は簡単には切れない」  
(伝道の書4:12)